
モバイル接続料の検証に関する追加質問に対する回答
【6月13日修正版】

2022年6月13日
株式会社NTTドコモ

1. 需要について(辻座長)

(1)KDDIの資料58-3のP.6の図を踏まえて、貴社のネットワーク設備の冗長構成と需要の考え方を図を使ってお示しください。

回答

- 当社のネットワーク設備の冗長構成は、構成員限り
冗長分は需要に算入しておりません。

1. 需要について(辻座長)

(2)事務局資料58-1のP.82にて、貴社の設備はActive/Standbyの冗長構成になっているように見受けられますが、これと(1)で示された貴社の冗長構成がどう対応しているのか、説明をお願いします。

回答

- 当社の設備は、構成員限り

1. 需要について(辻座長)

(3)接続料算定における合理性の観点から、自社のネットワーク設備の冗長性を踏まえ、どのような考え方で需要を設定しているのか、できるだけ定量的な説明をお願いします。

回答

- 当社は、利用者利便の確保の観点から、安定的なネットワークを提供することを目的に、ネットワーク設備の冗長性を確保しています。
- 他方、冗長構成による帯域は、あくまで障害時等における利用を前提としており、冗長構成があることで通常時あるいは障害時における総トラフィックが増えるものではないため、需要に算入しておりません。

1. 原価について(佐藤構成員)

(1)原価の各費目について、なぜ2020年度適用接続料の予測値と実績値に差分(増加・減少・横ばい)が生じたのか、その増減分と理由について御教示ください。

回答

- 2020年度適用接続料の原価に係る予測値と実績値の差分は、別紙の通りとなります。

構成員限り

-
- 差分が生じた理由は、2019年度の予測では、過去実績をもとにした推計(トレンド)を採用しており、当時、原価は増加傾向にあり、そのままトレンドとして採用したためです。
- 他方、実際には全社的なコスト効率化の取り組みが加速したことで、予測値に対して実績値が下回る結果となりました。

1. 原価について(佐藤構成員)

(2)原価の各費目について、なぜ2022年度適用接続料の予測値に差分(昨年届出時より増加・減少・横ばい)が生じたのか、その増減分と理由について御教示ください。

回答

- 2022年度適用接続料の原価に係る予測値と昨年の予測値の差分は、別紙の通りとなります。
- 予測値と昨年の予測値の差分は、全体で [] であり、ほぼ差分はないと考えております。

構成員限り

-
-
-

予測値と実績値の差分

(単位:億円)

費目	19年度予測	21年度実績	差分
営業費	構成員限り		
施設保全費			
共通費			
管理費			
試験研究費			
減価償却費			
固定資産除却費			
通信設備使用料			
租税公課			
合計			

予測値と予測値の差分

(単位:億円)

費目	20年度予測	21年度予測	差分
営業費	構成員限り		
施設保全費			
共通費			
管理費			
試験研究費			
減価償却費			
固定資産除却費			
通信設備使用料			
租税公課			
合計			

2. 需要について

(1)「接続料原価の対象となる設備の需要の測定箇所における通信容量の合計(貴社の需要+冗長分)」と「貴社の需要」それぞれの値を、直近数年間分(例えば、2021年度を含む過去3年。可能な範囲で。)についてお示してください。

回答

- 当社の需要については、以下の通りです。

	18年度実績	19年度実績	20年度実績
当社需要 (Mbps)	構成員限り		

構成員限り

-

2. 需要について

(2)総務省に届出された最繁忙トラヒックは、どの期間のどの数値を用いているのか。例えば、毎日の最繁忙トラヒックの年平均なのか、1年間の最繁忙トラヒックなのか、御教示ください。

回答

- 総務省に提出した最繁忙トラヒックは、利用状況調査にて四半期に一度総務省へ報告している時間帯別のトラヒックデータのうち、最もトラヒック量が多い時間帯の数値です。